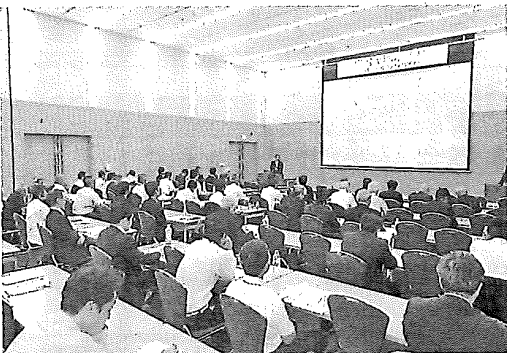


維持管理課題で意見交換

インフラメンテ国民会議九州 官民マッチングの萌芽探る

ピッチイベント

インフラメンテナン
ス国民会議九州フォーラム
（フォーラムリーダー・
日野伸一大分工業高等専
門学校校長）は9日、福
岡市内で第3回目となる
ピッチイベントを開催し
た。写真。今回のイベ
ントでは、ニーズとシー



ズのマッチングの萌芽を
探ること等を目的に、自
治体と民間企業の関係者
らが見解を交換。このう
ち、求めるニーズに道路
の雪氷対策技術を掲げた
熊本県は、対話した3企
業の技術を実証実験の中
で採用していきたい意向
を示した。

今回のピッチイベント
は、九州建設技術フォー
ラム2019との同時開
催として、福岡博多区
福岡国際会議
場で開かれた
もの。九州各
地の自治体や
建設会社、建
設コンサルタ
ントなどの関
係者らおよそ
130人が参
加した。

冒頭、日野
フォーラム
リーダーがあ
いさつ、この日の意見交
換のテーマ等について説
明するとともに「参加し
た皆さんの活発な討議に
より、課題解決の方策に
つなげていただきたい」と
した。

第3回イベントのテー
マは「ニーズとシーズ、
マッチングの萌芽」。プ
ログラムでは、第1部で
岐阜大学の六郷恵哲名誉
教授が基調講演を行うと
ともに、熊本県土木部道
路保全課と八代市建設部
土木課の職員らが、イン
フラの維持管理に係る具
体的な課題などについて
説明した。

このうち熊本県は、冬
季の道路雪氷対策に係る
負担軽減への取り組みと
して、地域維持型JVの
試行等を行っているこ
と。一方で、業者側の高
齢化や人手不足などの課
題が深刻化しつつあり、
入札不調も発生している
ことなどを紹介。このた
め舗装技術による橋面凍
結防止など、ハード面か
らの雪氷対策の負担軽減
に係るシーズを求めた。

また、八代市は市道と
して管理している石橋が
20橋あること。点検の結
果、1橋でアーチの一部
に変状等が見られたた
め、早期に詳細調査を
行った上で、解体・組み
直しが必要―等との判断
が示されたこと。その上
で、石橋に特化した点検
マニュアルや、比較的安
価な補修工法等に係る
シーズを必要としている
ことなどを説明した。

第2部では、それら自
治体等ニーズに対し、グ
ループに分かれて意見を
交換。メンバーは、自治体
職員やシーズを保有する
企業の関係者、有識者な
どで、討議に際しては、
まず企業側が課題解決に
係る可能性等についてプ
レゼンテーションした。

なお、それら企業は事
前の公募で選定されてお
り、熊本県のニーズには
▽(株)ガイアート▽オサダ
技研(株)▽(株)アマケンテッ
クの3社。八代市には
▽(株)建設プロジェクトセ
ンター▽(株)有明測量開発
社▽中央コンサルタンツ
社▽(株)尾上建設▽(株)葵文
化の5社が提案した。

グループでは、県側から3
社の技術とも今後、実装
化に係る検討を進める意
向が示されたこと。八代
市のグループでは、「(一)
社 九州橋梁・構造工学
研究会(KABSE)の
点検要領が有用でない
か」との意見が上がった
ほか、石橋の特殊性につ
いて意識の共有が図られ
たこと等が紹介された。

グループでは、県側から3
社の技術とも今後、実装
化に係る検討を進める意
向が示されたこと。八代
市のグループでは、「(一)
社 九州橋梁・構造工学
研究会(KABSE)の
点検要領が有用でない
か」との意見が上がった
ほか、石橋の特殊性につ
いて意識の共有が図られ
たこと等が紹介された。